

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2795000260		
法人名	社会福祉法人正福会		
事業所名	グループホームくつろぎ・友井荘		
所在地	東大阪市友井四丁目8番5号		
自己評価作成日	平成 28年 8月 25日	評価結果市町村受理日	平成 28年 10月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiqyosyoCd=2795000260-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 9月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様の出来ることややりたいことを尊重し、その人らしい生活を送っていただけるよう支援に努めている。またご家族様にも施設での生活のご様子や状況を機会があるごとに説明し、関係構築に努めている。ご利用者様、ご家族様と施設の風通しの良い施設運営をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年福祉に携わった理事長、施設長は、介護が必要となっても「住み慣れた地域や住まいで暮らし続けたい」との人々の願いを具現化するために、地域密着型の小規模特養に併設したグループホームを設立しました。ホームは、5年目を迎え、理事長や施設長の思いは職員に伝わり、ゆっくりとした時間の流れの中で、職員は利用者と共に過ごしています。職員の年齢層の幅が、様々な視点からのケアの気づきにつながり、利用者一人ひとりに応じた言葉遣いや対応に繋がっています。また、管理者と職員相互の風通しの良い関係が、ケアの質向上に繋がっています。この一年は、提携医療機関との連携による学習会を実施し、看取りケアにも力を入れてきました。個別での写真入り便りの発送、必要時FAXやメールで情報共有するなど、家族と積極的に関係を図っています。重度になっても「楽しいことをしたい」と願う利用者に、毎月楽しめるレクリエーションを企画し、笑顔をはきだしています。また、発語の少ない利用者へも職員が積極的に介入することで、交友関係が広がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を定例会議などで説明し、管理者・職員が共有し、実践につなげている。またご家族様にも法人の理念の知っていただけるように玄関に掲示している。	法人の理念をもとに、職員で話し合いグループホーム独自の理念として「ご入居者様一人ひとりの個別性を尊重し、快適、かつ安心、安全な暮らしを提供します」「我が家のような『やすらぎ』と『くつろぎ』のある生活を提供します」を作成しました。理念は、家族や利用者、地域の人が見えるところに掲示しています。職員も忘れないように文書にして携帯し、具現化に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気や気候の良い時には散歩や近くのスーパーへの買い物や地元の夏祭りへの参加や花見などを通じて地域との交流を図っている。	開設5年目を迎え、徐々に地域との繋がりが広がってきました。近隣中学よりクリスマスコンサートに演奏に来たり、敬老の日にはボランティアグループの慰問があります。また、恒例の夏祭りでは、ホーム前に太鼓台、獅子舞が来て、地域住民と一緒に利用者も楽しんでいます。自治会に加入しており、今後さらに近隣との交流を図り、地域の行事にも参加していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	施設開設後 5 年目に入っておりますが、認知症の方達の理解や支援の方法などについての情報発信は行えておらず、活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、提供サービスや行事などの内容を報告している。その際に運営についてのご意見があればサービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、開設以来2カ月に1回定例で開催しています。会議は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、地域住民代表(婦人部長)、社会福祉協議会職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員、併設施設の職員などで構成されています。会議では、利用者の状況や行事、外出などの活動報告を行っています。福祉にまつわる事件や事故などが話題に上がることもあり、意見交換を行うこともあります。会議での話題が、職員のストレスチェックの実施に繋がったこともあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営規程の変更などの機会を通じ、東大阪市の担当者と連絡を密にし、相談や指導を受けるなど協力関係を築くことができるように取り組んでいる。	日頃より、様々な事柄について市に相談し、助言を受けています。事業所連絡会や市の主催する研修会には、職員も参加しています。事故が発生した場合には、速やかに届け出をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体拘束となる具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 昨年度ご指導をいただいた玄関の施錠についても時間を決めて解錠に取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を作成しています。また、どのようなことが拘束であるのか研修会を実施し、自己チェックも行っています。管理者は、職員会議の冒頭で身体拘束廃止や人権の話をする機会を設け、共通認識を図るよう取り組んでいます。言葉遣いや対応などが気になった場合は、その場で注意しあっています。玄関の開錠については、職員間で検討し、安全面に配慮しながら、職員体制が整っている場合には開錠しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律などの理解を深めるために研修を通じてどういう行為が虐待になるのかを学び、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、ご入居者様に必要が生じた場合、家族や関係者と話し合い活用できるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または運営規程や重要事項の改定の際は、ご利用者様やご家族様に説明し、不安や疑問が生じないように理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様のご意見やご要望を訴え易いような雰囲気作りに努めている。またご意見箱も設置し、お出しいただいたご意見やご要望については定例会議で報告し、運営に反映している。	できるだけ利用者の様子を家族に伝えたいと、行事での様子を写真にとり、利用者毎に便りを作成し、郵送しています。家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望を出せるよう努めています。少しずつ、信頼関係が構築される中で、直接要望や意見が出されるようになりました。何か苦情などがあつた場合も、できるだけ利用者や家族の思いをくみ取ろうと努力し、職員間で解決に向けて話し合っています。必要に応じて、家族とメールでのやり取りや電話での連絡など、密に関係を図っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している定例会議の場を通じて意見交換を行っている。提案された事項について検討し、運営に反映させている。	この数年、職員の退職はありません。管理者は、定例会議の中で、職員の要望や意見を聞く機会を設けています。法人内の人事異動も、可能な範囲で調整を行いながら、希望に応じるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、やりがいや各自が向上心を持って働くことができるように環境整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けることのできる機会の確保に努めている。また介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得に向けて意欲を持って取り組むように働きかけている。また介護職員初任者研修の未受講者への受講料の補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会の定例会などの参加は行っているが、東大阪市内の同業者との交流できる機会は確保できていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始する時に利用者様自身が困っていること、不安に思っている事はその都度確認・傾聴し安心して生活して頂ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始する時に家族様が困っている事・不安に思っている事・要望については確認・傾聴し良好な関係づくりを努めている。緊急の際は電話などにて対応し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で、必要とされているサービスについて検討し、利用者様個々にてマッサージやリハビリ、訪問歯科、ドクター往診・受診などを利用され、他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のご意見・要望などを傾聴し不安・困っている事など全スタッフで検討し、解決策を実行する事で利用者様との信頼関係き、暮らしを共にする者同士の関係を築ける様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に相談ごと・心配な事があればいつでも話して頂ける様な雰囲気作りに努め、利用者様と家族様の絆を大切にしながら、共に利用者様を支えていく事が出来る信頼関係を築く事が出来る様に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>散歩などされた際などは施設近くに住まわれていた方と話しをされる利用者様もいるが、遠方から入所された利用者様は馴染みの人や場所との関係が途絶えてしまっており、関係が途切れないような支援は出来ていない。</p>	<p>近隣スーパーへの買物や行事への参加の際、知人に会うことがあります。利用者の加齢とともに近隣からの訪問は少なくなりましたが、職員は、積極的に家族と利用者との関係が継続するよう、手紙やファックスでのやり取りを支援しています。また、行事等を通じて、併設の特養の利用者と新たな関係ができるように働きかけています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性を把握し共同生活室における席の配置などに配慮しながら、一人ひとり孤立せず利用者様同士が話せ、支えあえる様な支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>状況に応じてサービス利用(契約)がなくなった方の情報を開示出来るよう保管し、必要に応じて本人・家族様のフォロー・相談や支援が出来るに様努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で希望や意向をお聞きした時は、ケース記録に残し職員間で周知している。また、ケアプランに取り入れる様にしている。	どこでどのように暮らしたいか、自ら訴える利用者は少なくなりましたが、入居時より、利用者や家族の思い、暮らしの希望を聴取しケースファイルに整理しています。また、入居後もコミュニケーションを図り、利用者の思いや希望を傾聴する中で、利用者の立場に立ち、何を望んでいるか把握することに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や生活スタイル等を聞き情報を共有する事で、その人らしい生活を継続できる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムが把握できる様、ケースに詳しく記録している。また、心身の状態変化については会議の中で検討し、支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の要望を聞き取り、介護計画は3ヶ月に1回、見直し・更新を行っている。その際、再アセスメントやモニタリングも実施している。また、医師や看護師に相談・助言を受けたり、会議で方向性を検討している。</p>	<p>受け持ち担当職員がおり、センター方式のシートを活用して、利用者、家族の思いなどの情報を整理したうえで、介護計画を作成しています。介護計画は、3ヵ月毎に見直しをしています。介護計画の見直しは、家族や利用者を確認し、毎月の定例会議で話し合い、モニタリングとして記録に整理しています。日々の記録は、パソコンで入力し情報を整理しています。職員は、利用者の楽しみに繋がるようなケアを目指して目標を設定し、チームで取り組んでいます。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアを実践する中で、ケースに詳しく記録を残している。また、パソコンソフトの申し送りや事務連絡を利用し、職員同士の引継ぎや意見交換、情報共有など細かい伝達も行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日常のケアとは別に、利用者様ごとに生じるニーズに対して柔軟な支援に取り組んでいる。また家族支援が受けられない場合、都合に応じて通院や入院中の対応等、行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物に出掛けると、近隣の知人より声を掛けて下さる事がある。また、地域の中学生との交流(演奏会)など、地域での関わりが継続できる様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりかかっておられたかかりつけ医やホームの協力医(かかりつけ医)についても説明を行い、選択が可能な事を伝えて決めていただいている。また、協力医(かかりつけ医)による、定期往診や24時間体制での相談・訪問など医療的な支援体制は整備されている。	協力医療機関より、2週間に1回内科医の往診があります。受診する医療機関は、利用者や家族の選択としています。入居前のかかりつけ医に家族の協力を得て受診している利用者もいます。緊急時の対応や夜間は、24時間オンコール体制で協力医療機関と連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師の方には24時間オンコール対応していただいております。利用者の状態変化や悪化がみられた時は適宜、相談や指示を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、本人の生活情報を提供している。また、家族や病院関係者と連携して、退院後の生活がスムーズに送れる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化及び看取りに関しては、前もって意向を文章で確認している。また、重度化した場合、本人の状況を踏まえて再度、意向を確認して本人や家族の思いに沿ったケアが出来る様に医師や看護師と連携し、チームで支援に取り組んでいる。看護師による、ターミナルケアの研修も実施している。</p>	<p>重度化や終末期の支援については、「終末期の在り方『事前同意書』」を作成し、どこでどのように最期を迎えたいか、利用者や家族に聞き取りを行っています。また、マニュアルを作成し、利用者・家族の要望に応じて、住み慣れた地域、ホームでできるだけ生活できるよう、看取りを視野に入れたケアに取り組んでいます。連携医療機関の看護師による研修会も実施し、チームで支援ができる体制を整えています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変に備え、勉強会にて学ぶ機会を設けたり、マニュアルを作成している。今後、救命講習会への参加なども検討している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立会で避難訓練を実施している。職員だけでなく、利用者にも参加いただき避難誘導や通報訓練、消火器の使い方などを行っている。地域との協力体制は築けていない。	非常災害対策は、消防計画、風水害、地震等の災害に対処する計画を作成しています。年2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の立会のもと、消火器の使用、夜間を想定しての訓練を実施しています。火災発生に備え、スプリンクラー、自動防火扉、消火器が整備されています。非常食や飲料水などの備蓄、防寒、排泄対策もしています。今後の避難訓練では、水害対策も考えて、2階への利用者誘導なども検討しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を理解しよく知ることにより、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。特に言葉遣いについては、馴れ馴れしい言葉と親しみのある言葉を混同しないように普段から注意している。	管理者は常に「言葉と介護はやさしく丁寧に」を職員に伝えています。特に言葉遣いについては、馴れ馴れしくなっていないか、利用者本人の言動を否定していないかなど、チェックシートを用いた研修を実施し、確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様自身が思いや希望を表現したり出来るよう信頼関係を築き、ケアの方法やレクリエーションなどについて自己決定できるよう自立支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・排泄・余暇・就寝・起床など総ての生活支援に関して利用者様一人ひとりの体調・状態を優先している。散歩などの外気浴なども取り入れ日々を安全・安心・快適に暮らして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物に関しては自立支援に基づき利用者様自身で選んで頂いている。普段から明めめの物を着て頂くよう支援し、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事イベントとして、ご当地メニューや季節の特別メニューを実施している。利用者様と一緒にランチオンマットを拭いたり、配ったりする。食事後は大テーブルまで食器を返して頂ける様支援に努めている。またメニュー掲示なども行っている。	食事は業者から調理されたものが届けられ、ユニットで盛り付けをしています。利用者の状態に合わせてキザミ食やペースト食があります。行事に合わせた特別メニューや、オヤツ作りなど利用者の楽しみとなっています。食事介助の必要な利用者が増えてきましたが、職員はせかすことなく、ゆっくりと一人ひとりのペースに合わせた介助を行っています。今後、管理者は施設内の厨房設備を使って施設内で調理することを検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者様の健康状態に注意しながら、食事摂取量を把握し、水分量も時間を決めて1日を通じて確保出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方はご自身で頂き、介助が必要な方には全介助や一部介助させて頂く事で口腔内の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々で排泄のパターンが異なるため介助が必要な方は定期的に時間を決め誘導させて頂いている。誘導の時間など変更が必要な利用者様は月一回の定例会議などで相談・話し合いにて決定し、自立にむけた支援に努めている。	ユニット内に3か所のトイレがあります。清掃が行き届いており、清潔な環境が保たれています。職員は利用者の排泄リズムを把握しており、トイレで排泄できるように誘導しています。誘導時間の変更など排泄の支援方法の見直しは定期的に話し合い、オムツ使用からリハビリパンツ使用へと改善された事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や水分を日頃から多めに摂って頂いたり、歩くなどの運動をして頂くなどし、個々に応じた予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行うものの、拒否される方に関しては無理やり入浴して頂くのではなく、時間をずらす、もしくは日にちをずらすなどして個々にそった支援に努めている。	利用者は週2回入浴をしています。拒否される方には日や人を変えながら無理のないように誘導しています。利用者の状況により、シャワー浴、足浴など柔軟な支援をしています。浴室は広々として明るく、個浴槽で利用者は職員と1対1でゆっくりと入浴を楽しんでいます。自分の好み入浴剤を毎回変えて楽しむ方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が休息・就寝されたい時には、自身の居室に戻っていただき、休息したり安心して気持ちよく寝られる様な環境を提供し支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が処方されている薬の効能や効果、副作用について服薬のリストを作成し、理解するように努めている。服薬の支援については出来るだけ見守りにて自身で服用して頂き、服用時には職員間で誤薬のないようにダブルチェックを行っている。症状の変化があれば往診時に随時ドクターに報告し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとのレクリエーションなど定期的に行っている。また散歩や塗り絵などご利用者様の出来ることに注目し、個々に取り組んでいただいたり、行事の装飾などは共同で行っていただくなど支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のその日の体調や希望などを考慮しながら、散歩や日用品、嗜好品の買い物などの支援に努めている。またご家族様にも協力をお願いし、外食等も支援している。現状は普段行けないような場所への外出などは現状行えていない。	気候の良い時期には、駅前のスーパーへの買い物や近くの神社まで散歩に出かけるなど、できるだけ外出の機会を作るように努めています。外出が困難なときは中庭に出て、ミニ菜園に触れたりして外気浴を楽しんでもらえるように支援しています。	天候や職員体制の都合により、毎日の外出支援が困難な中で、中庭に出て外気に触れる機会を持つなどの工夫をしています。今後は日常的な近隣への散歩や利用者の希望をもとに家族等の協力を得て、普段行けないところへの外出を支援されてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関しては施設にて管理している。買い物などの外出の際には施設で立替所持される事はあるが、現在は利用者様ご自身にてお金を所持される事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に利用者様自らが電話を希望されれば電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、清潔、整理、整頓に努め、利用者様に快適に過ごしていただけるように努めている。フロアや居室におけるテレビの音量などにも注意し、不快感を招かないように調整している。中庭からの採光を考えた配置にも配慮している。	グループホームの玄関先には、籐で縁取った看板、絵画や観葉植物、花を飾っています。玄関を入ると、リビング兼食堂があり、周囲に居室があります。共用空間は広く、リビングに面した中庭からの採光で室内は明るく、中庭の芝生を眺めることもでき、ゆったりした空間となっています。また、リビングの天井、壁には季節ごとの創作物や行事の写真を飾り、家族や職員の会話のきっかけにもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる時は居室に戻られる方が多い。気の合った利用者様同士で過ごせるように机を大きくしたり、皆様に机を囲んで話したりして思い思いに過ごせる様に工夫し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様や家族様と相談しながら、使い慣れたものや大切にされていた物を持ち込んだりして活かし、利用者様が快適かつ安全に過ごせるような工夫に努めている。	居室には、利用者の希望に応じて、危険物以外は自由に持ち込むことができます。室内にクローゼットもあり、季節の衣類など整理できる空間が整っています。利用者は、タンスやベッド、布団やシーツ類、仏壇や座椅子など自宅で使い慣れたものを持参し、家族の写真、小物類、作品などを飾っています。臭気へ配慮し、掃除にも力を入れています。入口には、プライバシーを考えカーテンを吊るしています。室内は広く、家族が簡易ベッドを置いて泊まれるスペースもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室側には手すりがあり、歩行訓練も出来る様に設置している。居室には様表札を付ける事で自立した生活が送れるよう工夫に努めている。浴槽には別途手すりを取り付けるなど安全性の確保に努めている。		